

資料タイトル： 夏期学校のプログラム一覧

作成者： J56 芥川博子

作成年： 2021 年

資料内容： 女子部卒業生に対して行われた夏期学校の内容についてまとめた。(開催年、講師とその講義内容、参加人数)
1955 年～1988 年(自由学園主催) 1989 年～1998 年(卒業生会主催)

典拠資料： 学園新聞、卒業生会報

『自由学園 100 年史』該当章： 第Ⅲ部第十二章

二次利用に際して： 1955 年～1988 年(自由学園主催)に関しては学園新聞(公開資料)からの典拠によるものなので事前許可制とする。
「資料利用許可申請書」を記入の上、archives@jiyu.ac.jpへ提出の事(詳細は「自由学園100年+」トップページ>資料の公開方針と利用方法を確認)。
1989 年～1998 年(卒業生会主催)に関しては卒業生会報(未公開資料)によるものなので二次利用については、お問い合わせください。

夏期学校のプログラム一覧

回数	開催年 (日数) 開催日	講師名と内容	参加人数
1	1955 (7日間) 7.31~8.6	齋藤勇「英文学の特質」 東畑精一「日本の農民」 天野貞祐「我らいかに生くべきか」 土岐善麿「歌の話」「ことばの話」 宮島龍興「原子の話」 田近憲三「西洋画家の見た日本美術」	48名
2	1956 (8日間)	R. H. プライス「開講の礼拝 西洋文化に於ける禅」 清水護「英訳聖書と英語・英文学」 池内友次郎「音楽の本質」 土岐善麿「実朝の歌・能について」 清水多嘉示「抽象と具象」 宮島龍興「原子の話」 R. H. プライス「いかに詩を読むか」 高橋長太郎「日本の財政」 大久保泰「ルネッサンスと今日の美術」 安部道雄「数の無限の段階」 関島久雄「家事第一主義」 横山淑「一葉・花圃・明治20年代」 小宮一郎「古きを現代につなぐもの 心意伝承」 山室光子・笹川和子「美術工芸指導」	46名
3	1957 (7日間)	福田恆存「シェイクスピアの魅力」 高橋長太郎「最近の経済情勢」 浅野誠一「現代と医学・健康」 藤井貞文「歴史学と民俗学と」 豊増昇「演奏家の仕事」 吉村順三「建築は素朴で正直なれ」	61名
4	1958 (3日間)	西川正身「マーク・トウェインの世界」 岩間徹「歴史を学ぶ態度」 大島康正「現代文明と倫理・宗教」 吉川逸治「西洋美術の話」 嘉治隆一「私達を取りまく世界」	67名
5	1959 (3日間)	吉坂隆正「ヨーロッパ以外の国の住居と生活について」 北川悌二「シェイクスピア時代の劇場」 窪田章一郎「新古今和歌集の話」 金沢誠「西欧における市民精神について」 嘉治隆一「終戦第14周年に際して」 田中克己「人の遺伝について」 紅林茂夫「資本主義経済の移り変りと20世紀の世相」 淡野安太郎「日本人の教養について」	46名
6	1960 (3日間)	矢野禾積「詩の解釈の仕方」 嘉治隆一「バランスを思う心」 鈴木成高「世界の中の日本」 清水多嘉示「松方コレクションを訪ねる」 関島久雄「貿易の自由化」	57名

回数	開催年 (日数) 開催日	講師名と内容	参加人数
		押田勇雄「文明とエネルギー」 稲富栄次郎「日本文化の根本問題」	
7	1961 (3日間)	齋藤光「New English Bibleとそれ以前の英語聖書」 嘉治隆一「世界人として日本人として」 鈴木成高「愛国心とは何か」 大島康正「民主主義とは何か」 宮島龍興「素粒子とは何か」 関島久雄「ロストウの Stages of Economic Growth を読みて」 工藤好美「言語と文学」	65名
8	1962 (3日間)	高橋健二 鈴木成高 嘉治隆一 寺沢芳雄 半沢朔一郎 関島久雄 田中一松	75名
9	1963 (3日間) 8/3~5	窪田章一郎「万葉集の歌を通して古き日本を訪ねる」 鈴木成高「日本における伝統と近代」 下村寅太郎『レオナルド・ダ・ビンチ』について 寺沢芳雄「どのようにして英語の聖書はつくられてきたか」 坪井誠太郎「地学雑話」 関島久雄「近代経済学の創始者『マーシャルについて』」 エドマンド・ブランデン「Abeunt studia in Mores」	88名
10	1964 (3日間) 8/7~9	久武雅夫「現代の経済学」 富永惣一「近代の美術」 尾関通充「時事問題」 林健太郎「現代社会と歴史意識」 天野貞祐「自由と道徳」 貫 達人「平安鎌倉の文化」 A.M.ハーディ「The Poets' Dream of Dawn and Evening」 下村寅太郎「科学の歴史について」	82名
11	1965 (3日間)	窪田章一郎「短歌の話」 河北倫明「日本美術の特長」 関島久雄「現在の不景気を切り抜けることは出来るか」 鈴木成高「戦後20年の感想」 下村寅太郎「西田哲学の易しさと難しさについて」 齋藤光「ヘンリー・ジェイムスにおける20世紀的なもの」 茅誠司「科学技術の進歩とその限界について」 辻村明「日本人のつきあい関係」	88名
12	1966 (3日間)	速水融「経済史的にみた近代化の問題」 齋藤光「フランクリンとキリスト教」 尾関通充「内外情勢概観」 鈴木成高「生きている中世」 下村寅太郎「聖フランシスの話」 戸田盛和「科学と人間」	

回数	開催年 (日数) 開催日	講師名と内容	参加人数
		岡野弘彦「大伴家持の歌」 嘉門安雄「西洋美術の伝統」	
13	1967 (3日間)	辻村明「イデオロギーの終焉」 関島久雄「社会資本の知識」 齋藤光「メルヴェルの生き方(礼拝において)」 鈴木成高「明治百年の回顧」 下村寅太郎「風景の成立とその精神史」 小津次郎「シェイクスピアの真実」 坪井誠太郎「自然科学随想」 柳宗玄「否定の芸術」 遠藤楽「ライトの建築」	71名
14	1968 (3日間)	高山岩男「人間社会の複雑さ」 清水多嘉示「ブルデルの芸術」 齋藤光「ホーソンについて」 鈴木成高「歴史の智慧」 関島久雄「国民所得」 辻村明「日本文化とコミュニケーション」 田中和夫「裁判と調停」 大槻虎男「抗生物質について」 稗田一穂「法隆寺壁画再現」	96名
15	1969 (3日間)	紅林茂夫「コンピューターの発達と人間」 吉川逸治「フランスのロマネスク絵画」 齋藤光「アメリカ初代のピューリタン」 天野貞祐「技術時代に生きる道」 湖山聖道「ストレスと健康」 窪田章一郎「古今和歌集の話」 戸田盛和「空を飛ぶ機械」 小津次郎「シェイクスピア悲劇の世界」	110名
16	1970 (3日間) 7/31~8/2	吉川奇美・笹川和子「ヨーロッパの旅から」 寺沢芳雄「On The New English Bible」 鈴木成高「今日の日本」 下村寅太郎「日本人の心性と論理」 鈴木政岐「太陽と人生」 平賀謙一・笹川季男「現代の建築像と明日への歩み」 田村英之助「ワーズワス人間自然」 吉岡堅二「法隆寺の壁画と共に」 尾関通充「情報化時代と新聞」	
17	1971 (3日間)	宮終二「8月6日の話」 尾関通充「円の問題を中心に日本の経済の現状」 鈴木成高「南欧の古い町と文化」 高山岩男「公害の哲学」 田村英之助・平野信行・島田太郎「英文学シンポジウム」 大槻虎男「生命をもった物質の話」 田村耕一「日本の陶芸」	約80名
18	1972 (3日間)	小津次郎「ハムレットを中心にして」 近藤正夫「芝生の雑草を抜きながら考えること」 羽仁恵子「シェリーのThe Cloud 購読」 阿部秋生「源氏物語の作者について」	61名

回数	開催年 (日数) 開催日	講師名と内容	参加人数
		下村寅太郎「風景と肖像の精神史」 尾関通充「今年の経済白書から」 坂崎乙郎「現代絵画とは何か」 天野貞祐「個人と国家」	
19	1973	伊藤鄭爾「建築と庭について」 阿部秋生「源氏物語について」 鈴木成高「生きている中世」 下村寅太郎「スウェーデン女王クリスティーナの生涯」 大島長造「環境と遺伝」 平野信行「Carson Mc Cullers “The Member of the Wedding”」 平井正穂「ミルトンの『失樂園』について」 辻村明「大衆社会とマスコミュニケーション」	
20	1974 (3日間)	山本学治・武藤章「ライトの建築」 阿部秋生「源氏物語講話」 鈴木成高「文明とは何か」 下村寅太郎「哲学者としてのレオナルド」 浜口博「原子エネルギーと放射能」 尾関通充「参議院選挙後の政治経済の動向」 高橋健二「ヘッセの生活と文学」	
21	1975 (3日間)	吉川逸治「西洋美術の古典伝統」 阿部秋生「『源氏物語』講読」 鈴木成高「教養とは何か」 辻村誠三「ギリシャ悲劇について」 行方昭夫「ヘンリー・ジェイムズの世界」 尾関通充「ゼロ成長経済下の消費動向」 坪井誠太郎「地学の近頃の話から」 和田淳蔵「数学の歩み」	102名
22	1976 (3日間) 8/6~8	阿部秋生「『源氏物語』講読」 斎藤光「アメリカ文学とその精神 独立二百年に際して」 鈴木成高「世界と日本」 藤原滋水「最近の異常気象について」 辻村公一「思索の手仕事」 手塚伸一「フランス語及びフランス文学への道」 尾関通充・羽仁翹・市岡揚一郎・平山惟夫 時事問題 座談会 『新聞の使命について』	
23	1977 (4日間) 8/3.5.6.7	下村寅太郎「ルネッサンス的人間像 ウルビーノの宮廷をめぐって」 吉岡常雄「帝王紫 古代染料の伝播」 手塚伸一「詩を通してのフランス語」 町沢直治「高い立場から見た初等数学」 島田太郎「アメリカ文学 ヘンリージェイムズ The portrait of a Lady」 羽仁翹「新聞の使命」 阿部秋生「源氏物語 宇治十帖のはじめとして『橋姫』より」 坪井誠太郎「地学雑話」	

回数	開催年 (日数) 開催日	講師名と内容	参加人数
24	1978 (3日間) 8/4~6	下村寅太郎「ルーベンス 特に外交官として」 鈴木成高「西洋文明とキリスト教」(6月 学園における講演のテープ) 手塚伸一「詩を通してのフランス語(Ⅱ)」 團勝磨「私の辿った道 発生学」 滝沢具幸「初期キリスト教美術・カッパドキアの壁画」 和田淳蔵「数学の歩み(Ⅱ)」 市岡揚一郎「世界経済と日本についての認識」 田村英之助「ある詩人の死 アメリカ現代女流詩人 シルヴィア・プラス」 阿部秋生「源氏物語講読『推本』より」	125名
25	1979 (3日間) 8/3~	下村寅太郎「西田哲学と日本語」 阿部秋生「源氏物語講読 第8回『總角』より」 手塚伸一「(一) フランス語の基礎 (二) ベルレーヌ Le ciel est par-dessus le toit」 平山惟夫「国際化と私達の生活」 池田幹雄「ものの見方と普遍性について」 和田淳蔵「数学の歩みⅢ」 鈴木成高「産業革命」(講演のテープ) 行方昭夫「現代英文学とモーム」 戸田盛和「科学と科学者」	109名
26	1980 (3日間) 8/1~3	下村寅太郎「聖フランシスコの十字軍行」 阿部秋生「源氏物語講読『浮舟』より」 大島康正「倫理とは何か」 坪井誠太郎「雑話あれこれ」 柴田稔彦「シェイクスピアの女性像」 和田淳蔵「数学の歩みⅣ 方程式の話」 手塚伸一「詩を通してのフランス語Ⅳ ランボー「谷間にねむる男」 見市元「国際経済問題の見所」 三善晃「内的現実を手がかりに 子供への音楽教育を考える」 鈴木成高「歴史とは何か」(学園における講演のテープ)	
27	1981 (3日間) 7/31~8/2	下村寅太郎「近代における自然科学と社会科学の成立」 羽仁翹・平山惟夫 時事対談 「国際情勢 日本の社会相」 手塚伸一「詩を通してのフランス語」 松井勇「地理学は如何なる学問か」 戸田盛和「自然科学と心」 鈴木成高「歴史」(5月 学園における講演のテープ) 磯地明雄「詩のはじまり」 松浦宥一郎「遺跡と考古学」 遠藤楽「ライトの建築」	
28	1982 (3日間) 8/6~8	下村寅太郎「近代科学の成立と魔術」 尾関通充「変わりゆく日本経済」 吉川逸治「ロマネスクの教会堂を訪ねて」 阿部秋生「紫式部の物語観」 手塚伸一「詩を通してのフランス語—ポール・ヴェルレー	

回数	開催年 (日数) 開催日	講師名と内容	参加人数
		ス『感傷的対話』を読むー 和田淳蔵「数学の歩み (V) 一物の形と幾何学ー」 寺澤芳雄「欽定英譯聖書を読むーマルコ伝 14 章を中心にー」 八幡一郎「一つの遺跡に立ちて」	
29	1983 (3日間) 8/5~7	下村寅太郎「ルネッサンスにおける哲学と魔術」 阿部秋生「明石の君について」 尾関通充「戦後日本経済の展開」 小池辰雄「ルター生誕五百年」 手塚伸一「詩を通してのフランス語」 大槻虎男「本邦における文化財の保存とかびによる劣化」 島田太郎「メルヴィルの『ペリーバッド』をめぐって」 飯田善国「私は何故彫刻家と成ったか」	
30	1984 (3日間) 8/3~5	下村寅太郎「日本の哲学と日本語について」 阿部秋生「紫式部」 深沢紅子「思い出の中から」 平野信行「フォークナーと南部」 古沢裕治「ルネサンス期の音楽」 市岡揚一郎「アメリカの最近事情」 藤原滋水「気候の話」 吉良幸世「主として鳥の飛行について」	
31	1985 (2日間) 7/27.28	吉村信亮「SDI について」 田中澄江「ガラシャ細川玉 キリスト教と日本の女性たち」 渡辺格「生命科学」 寿岳潤「現代の天文学」 齋藤光「アメリカ文学とピューリタニズム」 阿部秋生「藤壺・女三の宮・浮舟」 沢柳大五郎「ギリシャの陶器、白磁のレキュトス」	1~63 回生が参加 158 名 参加者が減ってきているので卒業生全体に呼びかける
32	1986 (2日間) 7/27,28	蠟山道雄「日本人の国際感覚について」 大須賀潔「新しいモラルを求めてー時代の願いとしてー」 齋藤光「メルヴェルについて」 阿部秋生「清少納言と紫式部」 小堀巖「異文化理解の難しさー地理学者としての私の体験からー」 田中澄江「隠れキリシタン」(休講)	1~64 回生 113 名
33	1987 (2日間) 7/25.26	今井隆吉 日下公人 齋藤光 阿部秋生 平井正穂 門倉一朗 辻邦生	1~66 回生 134 名
34	1988 (2日間) 7/23.24	蠟山道雄「国際化への要請と社会的条件」 柳瀬睦男「科学と宗教」 齋藤光「ピューリタニズムと米文学」 阿部秋生「晩年の紫式部」 樋口清「学園の建築の源泉について」	

夏季講座 及び 秋季講座	開催年月日 卒業生会主催	講師名と内容	参加人数
1	1989.11.18	阿部秋生「宮仕以前の紫式部」 藤原滋水「住みよい地球を取り戻すために」	約90名
2	1990.11.22	阿部秋夫「雨夜の品定めの記事について」 平井正穂「英詩へのアプローチについて」 前島郁雄「地球温暖化をどのように考えたらよいのか」	192名
3	1991.7.26	近藤いね子『Jane Austenの最後の完成作 Persuasion を読む』 石居進 「我が師、我が友」	98名
4	1992.8.29	渡辺和子「現代の忘れもの」 三善晃「ひとはなぜ歌うのか」—言葉と音楽—	256名
5	1993.8.28	岡野弘彦「万葉集をよむために」 小林英司「飲水行動の環境による進化」	200名
6	1994.8.27	岡野弘彦「万葉集の女性像」 高岡聡子「試験管の中で生き続ける細胞たち」	240名
7	1995.9.30	岡野弘彦「戦いの後にうたう女性の歌」 篠田達美「バウハウスと現代美術」	275名
8	1996.9.7	岡野弘彦「古事記について」 吉良幸世「マツカサのウロコにつきかた」	184名
9	1997.9.6	岡野弘彦『古事記』より「大国主の神」 井上充 「宇宙に開く巨大な瞳VSOP」	154名
10	1998.8.29	岡野弘彦「おとめの泉」 市岡揚一郎「自立のかたち」	86名